

品種解説：「ヤマウタ」

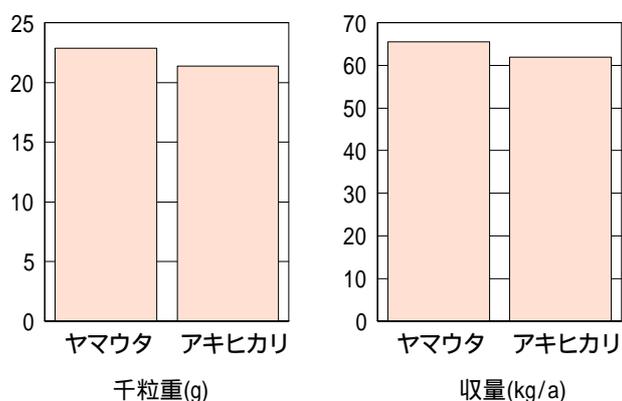
概要：本品種の障害型耐冷性は「アキヒカリ」より明らかに強く、「ムツニシキ」に近い“やや強”である。名前の意味は、“山間高冷地帯で豊作を祝う唄が歌われることを期待”を表現する。

1．来歴の概要

「び系 108 号」を母とし、「アキヒカリ」を父として、1979 年に青森県農業試験場藤坂支場で交配され、1980 年同組み合わせの第一世代を母とし、「ふ系 127 号」を父として三系交配された。1986 年に「ふ系 143 号」の系統名が付けられ、1991 年に水稻農林 310 号として登録された。

2．形態的特性

- ・草丈：「アキヒカリ」よりやや長い。
- ・穂数：「アキヒカリ」並みで、“短稈偏穂重型”のうるち種である。
- ・粒大：「アキヒカリ」並みである。
- ・千粒重：「アキヒカリ」より重い（下図参照）。



3．生態的特性

- ・出穂期・成熟期：「アキヒカリ」並みで、育成地では“早生の早”である。
- ・収量性：「アキヒカリ」より高い（上図参照）。
- ・耐倒伏性：「アキヒカリ」並みである。
- ・葉もち抵抗性：「アキヒカリ」よりやや強い。
- ・穂もち抵抗性：「アキヒカリ」並みである。
- ・耐冷性：「アキヒカリ」より明らかに強く、「ムツニシキ」に近い。
- ・穂発芽性：「アキヒカリ」より発芽しやすい。

特 性	ヤマウタ	アキヒカリ
耐冷性	やや強	やや弱
耐倒伏性	強	強
葉いもち抵抗性	やや強	やや強
穂いもち抵抗性	やや強	やや強
穂発芽性	中	やや難

4．品質・食味特性

- ・腹白、心白の発現は少ない。
- ・玄米の外観品質は「アキヒカリ」並みである。
- ・食味は「アキヒカリ」より優り、早生としては良食味で“中の上”である。
- ・タンパク質含量は「アキヒカリ」よりやや低いが、アミロース含量は「アキヒカリ」よりやや高い。

5．適地等

- ・寒冷地北部平坦地、その他寒冷地の平坦地から山間地、および関東以西の山間冷涼地帯に適する。

6．栽培上の注意

- ・初期生育が緩慢なので、健苗育成に心がけ、初期生育の促進を図る。
- ・強稈であるが、品質、食味の低下をさせないため、多肥栽培は避ける。
- ・登熟が良いので、遅刈りによる品質低下に注意する。

<参考資料>

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成3年6月）：平成3年農林水産省育成農作物新品种（夏作物・園芸作物）。